

The Molecular Biology Society of Japan

MBSJ NEWS

日本分子生物学会

2010.11

No.97

会報

目次

- 平成 23 年度（第 33 回）通常総会のご案内 1
- 「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」の
発足と若手研究者助成事業のお知らせ（予告） 1
- 第 17 期理事選挙結果のご報告 2
- 第 33 回日本分子生物学会年会・第 83 回日本生化学会大会 合同大会—
(BMB2010) 開催のお知らせ（その 3） 3
- 日本分子生物学会三菱化学奨励賞授賞式および受賞講演のご案内 5
- 日本分子生物学会 若手教育ランチョンセミナー 2010
「あなたの解釈は大丈夫？ 統計解析と研究ルール」 5
- 日本分子生物学会第 11 回（2011 年）春季シンポジウム
「分子生物学の明日 —金沢シンフォニー」のご案内 6
- 学会誌『Genes to Cells』に関するお知らせ 7
- 男女共同参画委員会活動報告 8
- 学術賞、研究助成の本学会推薦について 9
- 国内会員の年度会費クレジットカード利用可能のお知らせ 9
- 各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ 10
 - 2010 年度生理学研究所シナプス研究会
 - 千里ライフサイエンスセミナー
「極性制御を介する細胞からの組織構築とその異常による病態」
- 賛助会員芳名



特定非営利活動法人

日本分子生物学会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/>

分子生物学会は 2008 年に創立 30 周年を迎えました
が、これを記念し、1. その歴史を留め、2. 分子生物学
の現在と将来を概観・展望し、3. 次なる世代にその魅力
を伝えることを目的に、以下の 3 部作の出版を企画い
たしました。(出版社に直接注文で、会員 2 割引)



分子生物学に魅せられた人々

四六判 縦組 約 300 ページ 2010 年 12 月刊行予定

創立 30 周年を期に、分子生物学が今日に至った道筋を、記憶の奥にしまいこまれてしま
う前に記録することは重要と考え、日本の分子生物学の小史を書き留めることにしまし
た。本書は、分子生物学進歩の臨場感を味わっていただけるように、我が国において分
子生物学・分子生物学会の創立・発展に貢献した下記 14 名の方々に、現在第一線で活躍中
の研究者がインタビューをし、まとめたものです。

富澤純一／岡田吉美／村松正實／志村令郎／吉川 寛／松原謙一／小川智子
堀田凱樹／柳田充弘／竹市雅俊／谷口維紹／岡田清孝／田中啓二／長田重一

21 世紀の分子生物学

A5 判 横組 2 色刷 約 250 ページ 2011 年 10 月刊行予定

各分野の第一線で活躍する専門家が、最新の論文情報や知見も含めて易しく簡潔に分子
生物学を概説。コラムを豊富に挿入し、鍵となった歴史的な発見や実験などにもふれま
す。若い読者に“これなら自分にもできる、自分でもやってみたい”と思わせる一冊。

<生命の分子基盤> 細胞の構造と機能(大隅良典)／タンパク質、酵素(永田和宏)／
代謝調節(門脇 孝)／ゲノムと遺伝子(小原雄治)／RNA バイオロジー(塩見春彦)

<生命の維持と継承> 恒常性維持と細胞応答(加藤茂明)／細胞分裂(山本正幸)／
癌(山本 雅)／発生・分化(近藤寿人)／再生(山中伸弥)／老化(石川冬木)

<生命のコントロール> 脳と神経(岡野栄之)／概日時計(近藤孝男)／植物のバイ
オテクノロジー(島本 功)／細菌・ウイルス・感染症(小安重夫)／創薬(辻本豪三)

なぜなぜ生物学

新書判 縦組 約 200 ページ 定価 1470 円 2010 年 12 月刊行予定

中学生・高校生とその家族、あるいは生物を専攻しなかった社会人の方々がふと思う「い
のち」にかかわる「なぜ？」について、分子生物学の最先端で活躍している研究者が対話形
式でやさしく答えます。「いのち」の不思議を解く面白さを一人でも多くの人に知って
もらい、次の時代の分子生物学を担う若者の参入を期待します。

<目次> 遺伝子とパソコンソフトはどこが違うの？(五十嵐和彦)／なぜ肥満と痩せに
なるの？(島野 仁)／なぜ親子は似るの？(正井久雄)／なぜ癌になるの？(花岡文雄)／
どうして心臓は左にあるの？(松崎文雄)／雄と雌ってなにが違うの？(諸橋憲一郎)／ど
うして毎年のようにインフルエンザに罹るの？(永田恭介)／なぜ地球環境にいいことを
グリーンというの？(篠崎一雄)／けがをしてもちゃんとなおるよね！(阿形清和)／クジ
ラはどこから来たの？(岡田典弘)／組換え食品は安全なの？(渡辺雄一郎)／細胞の中
に見えるの？(永井健治)／くすりはどうやって創るの？(吉田 稔)

平成 23 年度（第 33 回）通常総会のご案内

平成 22 年 11 月

正会員・名誉会員 各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
理事長 岡田 清孝

以下の要領で第 33 回通常総会を開催いたしますので、多くの会員のご出席をお願い申し上げます。ご存知のように、本会は 2007 年に特定非営利活動法人となり、重要案件は総会で決定されます。総会の成立には、正会員＋名誉会員の 1/2 以上の出席（委任状を含む）が必要となりますので、会員皆様の積極的なご出席をお願いいたします。

つきましては、同封はがき、あるいはメール返信（11 月中旬に配信予定）にてご出欠予定をお知らせください。ご都合がつかない場合には、必ず、委任状（同封はがき、あるいは 11 月中旬配信メールの返信）をご提出下さるようお願い申し上げます。

記

日 時：平成 22 年 12 月 8 日(水) 14：30～15：10

場 所：神戸国際会議場 3 階 第 13 会場（国際会議室）

- 予定議題：1) 経過報告（理事長報告、編集報告、庶務報告、若手研究奨励金（富澤基金）について、その他）
2) 22 年度（2010 年度）決算承認の件
3) 23 年度（2011 年度）予算ならびに事業計画承認の件
4) その他

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」の発足と 若手研究者助成事業のお知らせ（予告）

本学会名誉会員である富澤純一博士と故・桂子夫人は、分子生物学に関連する生命科学の基礎的な領域において独創的な研究を行いつつあるが研究費に恵まれない若手研究者の助成を目的として、日本分子生物学会に私財をご寄付くださいました。理事会ではこれをありがたくお受けし、基金運営委員会を立ち上げ、本年の年会時に若手助成事業への応募要項を発表できるよう準備を進めています。詳細は未定ですが、対象は原則 39 歳以下の若手研究者（経歴などで特別な事情がある場合を除く）とし、毎年 5 名程度の方に 1 名あたり約 300 万円を贈呈する予定です。用途については、研究の推進に関係していれば、かなり自由度の大きいものになる予定です。

正式発表までは事務局では応募要項等についての問い合わせには応じられません。あしからずご了承ください。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
第 16 期理事長 岡田 清孝
「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」
基金運営委員会委員長 山本 正幸

第 17 期理事選挙結果のご報告

2010 年 11 月

会員各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

過日、実施されました、第 17 期理事選挙につきまして、以下の通りに投票結果をご報告いたします。(第 17 期理事の任期は 2011 年 1 月から 2012 年 12 月までの 2 年間です)

選挙公示日 2010 年 6 月 15 日(火) (会報 96 号発送)
投票期間 2010 年 6 月 21 日(月) 9:30 ~ 7 月 9 日(金) 18:00
開票日 2010 年 7 月 15 日(木)
開票場所 日本分子生物学会 事務局
開票立会人 選挙管理委員 3 名 (黒田真也、石野史敏、黒柳秀人)
有権者数 14,133 名
投票者数 808 名
投票総数 8,080 票 (うち白票 1,875 票)

当選者 50 音順

相沢 慎一 (理研・CDB)	杉本亜砂子 (東北大・生命)
阿形 清和 (京大・理)	田中 啓二 (都臨床研)
審良 静男 (阪大・IFReC)	谷口 維紹 (東大・医)
五十嵐和彦 (東北大・医)	月田早智子 (阪大・生命機能)
石川 冬木 (京大・生命)	永田 恭介 (筑波大・基礎医学)
上田 泰己 (理研・CDB)	中山 敬一 (九大・生医研)
大隅 典子 (東北大・医)	鍋島 陽一 (先端医療財団・先端医療センター/京大)
貝淵 弘三 (名大・医)	西田 栄介 (京大・生命)
影山龍一郎 (京大・ウイルス研)	花岡 文雄 (学習院大・理)
五條堀 孝 (遺伝研)	三浦 正幸 (東大・薬)
後藤由季子 (東大・分生研)	水島 昇 (東医歯大・医歯)
小原 雄治 (遺伝研)	宮園 浩平 (東大・医)
小安 重夫 (慶應大・医)	柳田 充弘 (京大/沖縄科学技術研究機構)
塩見 春彦 (慶應大・医)	山本 雅之 (東北大・医)
白髭 克彦 (東大・分生研)	米田 悦啓 (阪大・生命機能)

以上 30 名

○ 第 17 期理事長選任について

2010 年 10 月 15 日、東京で開催されました第 17 期新理事会準備会議において、小原雄治氏 (国立遺伝学研究所所長) が第 17 期理事長 (任期: 2011 年 1 月より 2 年間) に選出されましたので、ご報告いたします。



第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会 合同大会 (BMB2010) 開催のお知らせ (その3)

会 期：2010年12月7日(火)～10日(金) (4日間)
市民公開講座 12月11日(土) 会場：東京大学安田講堂
会 場：神戸ポートアイランド
(神戸ポートピアホテル、神戸国際会議場、神戸国際展示場)
大 会 長：第33回日本分子生物学会年会 年会長 谷口 維紹 (東京大学大学院医学系研究科)
第83回日本生化学会大会 会 頭 田中 啓二 (東京都臨床医学総合研究所)
大会事務局連絡先：BMB2010 事務局
〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-4-63 新大阪千代田ビル別館9階
Tel：06-6350-7247 Fax：06-6350-7248 E-mail：bmb2010@aeplan.co.jp
URL：http://www.aeplan.co.jp/bmb2010/

※ 大会開催の詳細は同封のプログラム集をご参照ください。

○プログラム

大会プログラム

特別講演

プレナリーレクチャー

パイオニアズレクチャー

大会長企画シンポジウム

シンポジウム

ワークショップ

一般演題 (ポスター発表、一般口頭発表)

(※ポスター発表については、プログラム集に掲載された演題に加え、7月下旬の一般演題投稿締切後の新たな研究結果等に基づく Late-breaking Abstracts 枠の発表も行われます。)

フォーラム

バイオテクノロジーセミナー

男女共同参画企画ランチョンワークショップ

機器・試薬・書籍等附設展示会

特別企画「ナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP)」

日本分子生物学会関連行事および企画

第33回通常総会／第8回日本分子生物学会三菱化学奨励賞授賞式・受賞講演

若手教育シンポジウム「若手教育ランチョンセミナー 2010」

○参加に関するご案内

参加手続きについて

事前参加登録受付は10月29日(金)に締め切りました。事前参加登録をされた方は、受付の必要はありませんので、11月下旬ごろに送付する参加章(名札)をご着用のうえ、そのまま会場へご入場ください。

なお参加章は、大会ホームページより10月29日(金)までに事前参加登録を行い、11月5日(金)までに参加費が振り込まれている方へのみ事前送付いたします。上記期日までに参加費の振込みがない場合は、事前参加登録は無効になりますので、会場にてあらためて当日参加登録を行ってください。

参加章には氏名と所属を記入し、大会会場では必ずご着用ください。参加章を着用されていない方の入場は固くお断りいたします(12月11日(土)市民公開講座を除く)。

◆参加受付窓口

窓口	場所	受付時間	受付内容
第1受付	神戸国際展示場2号館1階	8:00～17:00 ※10日(金)のみ8:00～15:30 ※第2受付のみ8日(木)から7:30 OPEN	当日参加登録受付・総合案内 学会入会・宿泊案内 他各種ご案内
第2受付	神戸ポートピアホテル本館地下1階		

◆当日参加登録費

登録種別		参加費	プログラム集	オンライン要旨閲覧
日本分子生物学会 もしくは 日本生化学会	正会員	10,000円	学会費に含む	参加費に含む
	学生会員	7,000円		
非会員		13,000円	1部3,000円	※閲覧用のID/パスワードを 発行いたします。
学部学生 / 中・高校生		学生証掲示により無料		

国内参加者のお支払いは現金のみとなります。
中・高校生を引率される教員は参加費無料となります。

○プログラム検索・オンライン要旨閲覧システム

本大会の講演要旨集はオンライン化し、印刷物やCD-ROMを作成しません。

参加登録者は、11月19日(金)より、ID・パスワードを用いて大会ホームページから要旨等の閲覧・検索・ダウンロードができます。

【プログラム検索・オンライン要旨閲覧システムへのアクセス・ログイン】

大会ホームページよりプログラム検索・オンライン要旨閲覧システムページへアクセスしてください。プレナリー・レクチャー・パイオニアズレクチャー・大会長企画シンポジウム・シンポジウム・ワークショップ・一般口頭発表・ポスターのプログラム検索が可能です。

大会ホームページ <http://www.aeplan.co.jp/bmb2010/>

※11月19日(金)より利用可能。大会終了後、3ヵ月を経たのちにシステムを閉鎖します。

【オンライン事前参加未登録の場合（参加登録は行ったが、参加費未納の方を含む）】

ログインなしに、プログラム検索のみ可能です。ただし要旨の閲覧・ダウンロードはできません。

【オンライン事前参加登録済みの場合】

参加登録IDとオンライン事前参加登録時に登録したEメールアドレスを入力してログインしてください。

プログラム検索のほか、要旨の閲覧・ダウンロードおよび参加者ご自身のカスタマイズによる「マイスケジュール」機能の利用が可能です。また、オンラインでの要旨閲覧のみならず、オフラインにて全要旨のダウンロードなども行っていただけます。

当日登録される方には、会場にてログイン用のIDとパスワードをお渡しします。

【大会会場でのシステム利用】

大会当日は、インターネットコーナー（神戸国際展示場3号館）を設置しておりますので、ご利用ください。また、大会会場では無線LANも完備いたしますので、ご自身のPCを用いてオンライン講演要旨集へアクセスいただくことも可能です。

日本分子生物学会三菱化学奨励賞授賞式および受賞講演のご案内

「第8回(2010年)日本分子生物学会三菱化学奨励賞」の授賞式および受賞講演を下記の要領により開催いたします。

【授賞式および受賞講演】

日 時：2010年12月8日(金) 15:20～16:30

場 所：神戸国際会議場3階

第13会場(国際会議室)

【第8回日本分子生物学会三菱化学奨励賞 受賞者】

倉永英里奈(東京大学大学院薬学系研究科 遺伝学教室 講師)

(研究題目)

生体レベルにおけるカスパーゼの生理機能とその制御メカニズムの遺伝学的解明

Exploring the regulatory mechanisms and physiological function of caspase in vivo

松林 嘉克(名古屋大学大学院生命農学研究科

生理活性物質化学研究室 准教授)

(研究題目)

植物の成長制御に関与するペプチドホルモン群に関する研究

Molecular analysis of peptide hormones regulating plant growth and development

日本分子生物学会 若手教育シンポジウム

若手教育ランチョンセミナー2010

—あなたの解釈は大丈夫? 統計解析と研究ルール—(聴衆参加型レスポンスシステム導入)

●日 時：2010年12月8日(水) 11:45～13:00
(年会2日目)

●会 場：神戸国際会議場3階 国際会議室(400席)

●司 会：上村 匡(京都大学)

白髭 克彦(東京大学)

※お弁当には限りがありますので、12月8日(水)午前8時より、バイオテクノロジーセミナーデスク(神戸国際展示場3号館「展示会場」入口)にて『参加整理券』を発券します。

第一部：講演(30分)

手良向 聡(京大病院探索医療センター検証部)

「科学的実験と統計的実験の境界」

第二部：聴衆参加型パネルディスカッション(40分)

「研究ルールについて考える」

パネリスト：日本分子生物学会・若手教育問題ワーキンググループ

上田 泰己(理化学研究所)、上村 匡(京都大学)、後藤由季子(東京大学)、小林武彦(遺伝研)、塩見美喜子(慶應大学)、白髭 克彦(東京大学)、水島 昇(東京医科歯科大学)

※会場の皆様にはレーザーをお配りし、皆様のご意見をリアルタイムに前方画面に表示する『レスポンスシステム』を導入します。

若手教育シンポジウムは今回で第4回目をむかえました。これまで、研究不正の実例や背景、データ提示に関する方法論などについてのレクチャーやパネルディスカッションを行って参りました。今年も、昨年同様2部形式のランチョンセミナーとし、前半ではみなさまからの要望の多かった統計解析を、後半では研究ルール(オーサーシップやマテリアル権利の取り扱いなど)をテーマとして取り上げ、聴衆参加型レスポンスシステムを利用しながらみなさまと一緒に考えたいと思います。お弁当も用意いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

主催：特定非営利活動法人 日本分子生物学会

協賛：チエル(株)、(株)学研メディカル秀潤社

日本分子生物学会第 11 回 (2011 年) 春季シンポジウムのご案内

日本分子生物学会第 11 回春季シンポジウム「分子生物学の明日 —金沢シンフォニー」を新緑の金沢で開催いたします。我が国のトップサイエンティストの方々にお集まりいただき、魅力あるセッションを組む予定です。場所は、世界に誇るプロ室内オーケストラ、オーケストラ・アンサンブル金沢の本拠地、石川県立音楽堂です。様々な分野の研究者が奏でるシンフォニーをお楽しみください。また、今回は、金沢大学がん研究所を母体とする金沢国際がん生物学シンポジウムを組み入れ、海外からの研究者をお招きし、International Session としてがん生物学の話題を提供します（金沢大学との共催）。多くの学生やポスドクなど若手の方にご参加いただき、活発な議論のできるシンポジウムとなるよう企画しております。また、春季シンポジウムの一環として、市民公開講座も開催いたします。

詳細は 2011 年 1 月に開設予定の春季シンポジウム専用ホームページなどで随時ご案内いたします。ポスター発表の申し込みはお早めをお願いいたします。

【第 11 回春季シンポジウム】

会 期：2011 年 5 月 25 日(水)～ 26 日(木)
会 場：石川県立音楽堂（石川県金沢市）
参加費：無料

特別講演

長田 重一（京都大学大学院医学研究科・教授）

「細胞死から新しい発展をめざして」

鍋島 陽一（(財)先端医療振興財団先端医療センター・センター長）

「Klotho によって紡がれた生命の糸を解きほぐす」

一般セッション

トピックス：免疫・アレルギー・炎症の分子生物学、時間生物学、メタボリック症候群の分子生物学、疼痛の分子機構、再生医学とエピジェネティクス

International Session : Biology of Cancer（金沢国際がん生物学シンポジウム）

日本を代表する若手研究者による Leading Edge セッション

ポスター発表（たくさんの演題をお待ちしています）

【市民公開講座】

「金沢 21 世紀美術館でサイエンス！」

金沢市の中心にあります金沢 21 世紀美術館で、理系進学を目指す高校生を対象に、分子生物学に関する講演会を行います。本美術館は、「建築界のノーベル賞」として知られるプリツカー賞を受賞した世界的建築家により設計され、金沢を代表する文化施設です。市民公開講座では、お二人の講師の方に、「分子生物学と美術・アート」を主題にお話いただきます。高校生にとって、身近なところから分子生物学の楽しさ、面白さを実感してもらい、本講座が将来の分子生物学を担う若者の育成に貢献することをねらいとします。

日 時：2011 年 4 月 24 日(日) 午後

会 場：金沢 21 世紀美術館 シアター 21

定 員：150 名

参加費：無料

講 演

小出 五郎（科学ジャーナリスト・元 NHK 解説委員）

「名画に見るこころとからだ —科学者の目、芸術家の目—」

近藤 滋（大阪大学大学院生命機能研究科・教授）

「波が作る生物の模様と形 —生物と数学の不思議な関係—」

日本分子生物学会 第 11 回春季シンポジウム

世話人 平尾 敦（金沢大学がん研究所）

学会誌『Genes to Cells』に関するお知らせ

出版契約書の改定から2期目となる収支報告（2009年分）が出版社よりなされ、学会誌発行に掛かる学会の収支が引き続き安定していることをご報告します。

『Genes to Cells』に関する新たな取り組みとしては、日本分子生物学会三菱化学奨励賞の第7回（2009年）受賞者より、受賞を記念して総説をご投稿頂けることになりました。「MBSJ MCC Young Scientist Award 2009 REVIEW」と題した受賞者の総説は、2010年9月号（Vol.15 No.9）に掲載されています。どうぞご覧下さい。

さらに、著者が所定の費用を負担することで、出版から半年を待つことなくオープンアクセスに設定可能なサービス「Online Open」を導入し、本年9月号発行時点において6報が採用されています。これらは、論文掲載と同時にオープンアクセスとなり、世界中からフリーでアクセスすることができます。一刻も早い発信を希望される著者の皆様は是非「Online Open」のご利用をご検討下さい。

また、すでに会員の皆様はご承知と存じますが、本年6月号（Vol.15 No.6）から、論文タイトルの日本語版について、会員向けのメール配信および学会ホームページでの公開を開始し、最新論文へのダイレクトリンクを可

能にしました。『Genes to Cells』が生命科学の幅広い分野を対象としていることを改めてご理解頂き、引き続き本誌へのご投稿をよろしくお願い申し上げます。

個人会員（正会員、名誉会員、学生会員）はオンライン版のフリーアクセスが可能ですので、ご希望の方は学会事務局< info@mbsj.jp >へメールにてお申し込み下さい。

【プリント版の会員特別価格購読について】

本学会の会員は、『Genes to Cells』の冊子版を会員特別価格で購読することができます。学会ホームページから申込書をダウンロードし、必要事項を記入のうえ学会事務局へお送り下さい。サンプルのご依頼にも対応しています。

2010年も購読中の方には、記入が簡単な継続専用の申込書を別途お送りしましたので、そちらをご利用のうえ学会事務局へご返送をお願いします。

- ※ 個人購読料 16,500円/年（正会員、学生会員）
- 機関購読料 35,000円/年（賛助会員）

編集幹事 上村 匡

男女共同参画委員会活動報告

男女共同参画委員会 委員長 杉本亜砂子
副委員長 篠原 彰

1. 第33回日本分子生物学会年会 (BMB2010) に関連して

i) 演題発表者の属性調査について

今年も、BMB2010の演題投稿ページにアンケート項目が設定され、属性調査が行われました。昨年と同様、大変多くの方にご協力をいただき、ありがとうございました。現在、調査結果の集計が終わり、内容の分析作業を進めております。分析した結果は、BMB2010で開催される男女共同参画ワークショップで発表し、また、内容をまとめたポスターを、会場に掲示いたします。

ii) 男女共同参画企画ランチョンワークショップについて

年会で開催する男女共同参画企画は今回で10回目となりました。今年は、生化学会との合同企画で行います。

- 日 時：2010年12月7日(火) 11:45～13:00
- 会 場：第10会場 (神戸ポートピアホテル本館地下1階・偕楽3)
- テーマ：「男性からみた男女共同参画」

今回のワークショップでは、これまで男女共同参画でもあまり扱われなかった男性の視点を念頭に、男性の育児(家事)参加を1つの柱として、男女参画について新しい視点から議論を展開することで、年齢を問わず男性の意識、男性を取り巻く女性の視点の変革の一助にできれば、と思います。講演者として、日本初の「父親学校」を開き、今話題のイクメン(育児を積極的に行う男性)を応援するFathering Japan(ファザーリング・ジャパン)を設立、そしてその代表理事を務める安藤哲也氏をお招きしました。今回の企画が、年齢を問わず男性の意識、男性を取り巻く女性の視点の変革の一助につながっていけば幸いです。

なお、ワークショップ終了後、同会場で安藤氏による企画を、1時間ほど続けて行います。ご興味のある方は、どうぞご参加ください。

※ご注意※

今年は、ワークショップのご参加に、その他のバイオテクセミナーと同様、『参加整理券』(お弁当引換券)が必

要になりました。本ワークショップの『参加整理券』は、12月7日(火) 8:00よりバイオテクノロジーセミナーデスク(神戸国際展示場3号館「展示会場入口」)にて発券します。なお、『参加整理券』をお持ちでない方も、11:45以降はご入場いただけます。

2. 女子中高生夏の学校

毎年、協力している「女子中高生夏の学校2010～科学・技術者のたまごたちへ～」へ今年も参加しました。このイベントは、国立女性教育会館、日本学術会議が主催となっており、女子中高生に、科学技術の世界の楽しさや、活躍する女性たちの生き方の魅力に触れ、科学技術に関心のある仲間や先輩と知り合うことを目的として、開催されています。分子生物学会は協賛の形で協力し、福田公子委員は「生物(なまもの)を使わない生物の進化」の実験、協賛委員は「匂いが脳に伝わる仕組み～魚の好きな匂いと嫌いな匂い」をテーマとしたポスター発表と小実験を行いました。参加者には実際にゼブラフィッシュの脳を見てもらい、大変好評でした。また福田公子委員は保護者、教員向けの2つのプログラムの企画も行い、理系進学や就職、企業や国の男女共同参画への取組みを紹介しました。

6回目となった夏の学校には、過去の参加者で、理系進路を選択した夏学OGが、企画委員として既に参加し始めています。今後も、科学技術世界への理解、また生徒の理系進路選択の支援のため、学会として、協力を続けていきたいと考えています。

3. 男女共同参画学協会連絡会・委員会報告

2011年7月、第4期科学技術基本計画および第3次男女共同参画基本計画への要望書として、「科学技術分野での男女共同参画の推進に向けての要望」を作成しました。これを、学協会連絡会に正式加盟する41学協会と26のオブザーバー学協会の全てが承認した内容として、文部科学省、内閣府男女共同参画局、総合科学技術会議に提出しました。要望書の内容は、下記URLよりご覧ください。<http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/request/index.html>

学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No.96 (6月号) に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会賞推薦委員会または研究助成選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問い合わせ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
- 2) 本学会の選考委員用および学会用控に、上記申請書類のコピー計6部
- 3) 申込受付確認のための返信封筒（返信用の宛名を記入しておいて下さい）
- 4) 論文（別刷は各種財団等応募先の必要部数をご用意下さい。委員会用の論文は不要です）

2. 提出先

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会・賞推薦委員長 田畑 哲之
〒102-0072 千代田区飯田橋3-11-5
20 山京ビル 11階
日本分子生物学会事務局気付

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会・研究助成選考委員長 町田 泰則
〒102-0072 千代田区飯田橋3-11-5
20 山京ビル 11階
日本分子生物学会事務局気付

3. 提出期限

財団等の締切りの1カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。推薦手続きのことでご不明な点がありましたら、学会事務局までお問い合わせ下さい。

4. 留意事項

学会推薦した会員が財団等の研究助成対象者となった場合には、その研究成果を将来、学会誌「Genes to Cells」に論文あるいは総説として発表して頂くように要請いたします。応募に際しては、その旨をご了解くださるようお願いします。

国内会員の年度会費クレジットカード利用可能のお知らせ

今年度（2011年度）より、学会ホームページ上の会員管理システムにおいて、クレジットカードによる年度会費の支払いが可能になりました。システム内「会費納入状況」の画面からクレジット決済へ進み、カード情報を入力することで会費の未納額が即時決済されます。手数料は一切かかりません。

「会員管理システム」のログインにはID（6桁の会員番号）とパスワードが必要です。パスワードを紛失もしくは忘れた場合、ホームページ上からパスワード再発行申請書をダウンロードし、必要な項目にご記入・ご捺印のうえ、FAX（または郵送）にて学会事務局へお申し出ください。新パスワードは数日中に郵送いたします。なお、個人情報の保護を考慮し、パスワードに関しては電話ではお答えできませんのでご了承ください。

会費請求書（郵便局の払込取扱票）による支払いと重複のないようお願いいたします。

【会計年度について】

本学会の会計年度は10月1日から翌年9月30日までです。

2010年10月1日から2011年9月30日までが2011年度会計となります。



各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

○2010年度生理学研究所シナプス研究会

「記憶痕跡」の実体は何か。本年度の生理研シナプス研究会は「学習・記憶行動の基盤としてのシナプス可塑性」と題し、学習行動に対応したシナプスの分子や機能、構造変化の観察が成功した例を中心に「記憶痕跡」の実体に迫っていきます。

会 期：2010年12月2日(木)～3日(金)

会 場：生理学研究所(岡崎市)1階会議室

世 話 人：重本 隆一(生理研)

林 康紀(理研・BSI)

プログラム：(発表は英語で行われます)

12月2日

13:00～15:30

(座長)美津島 大(横市大院・医・生理)

宮崎 智之(横市大院・医・生理)

天野 大樹(ラトガー大学)

加藤 総夫(慈恵医大・医・神経生理学)

15:30～15:50 休憩(コーヒープレイク)

15:50～18:20

(座長)重本隆一(生理学研究所)

王文(Wang Wen)(生理学研究所)

胡海嵐(Hu Hailan)(中国科学院神経科学研)

村山 正宣(理研・BSI)

18:30～20:30 ポスター発表&懇親会

12月3日

9:00～11:30

(座長)渡辺 大(京大・生命科学)

渡辺 大(京大・生命科学)

Neal Hessler(理研・BSI)

小早川 高(OBI)

11:30～12:30 優秀ポスター口頭発表

(座長)林 康紀(理研・BSI)

参加費：無料(懇親会 一般:5000円、学生:2000円)

参加登録：下記ホームページより。当日参加も可能ですが、懇親会の準備の都合なるべく11月18日迄にお申し込み下さい。

お問い合わせ先：小鹿 郁子(synapse@nips.ac.jp)

研究会ホームページ：

http://www.nips.ac.jp/synapse_nips/

○千里ライフサイエンスセミナー

「極性制御を介する細胞からの組織構築とその異常による病態」

日 時：平成23年1月21日(金) 10:00～17:00

場 所：千里ライフサイエンスセンタービル5階
ライフホール

趣 旨：

細胞が極性を獲得することは、様々な生命現象において細胞が示す重要な特性である。例えば、分化した上皮細胞と神経細胞に特有の形態と機能などは細胞の極性化に基づく。また、とりわけ発生過程では、極性化と脱極性化を組み合わせることで細胞形態は変化し、組織や器官が形成される。この際には、複数の細胞の極性化が空間的・時間的に巧妙に調整されなければならない。逆に、一旦確立した組織の極性が破壊されることが癌の悪性化等に関与する。これまでに個々の細胞の頂底軸や運動時の前後軸等の極性決定の分子機構は明らかになってきたが、極性化した細胞が如何にして組織を形成するかの理解は不十分である。

本セミナーでは、最新の研究成果を第一線の研究者にお話をいただき、分子から個体レベルにおける極性化と形態形成の関連についての理解を深めたい。

コーディネーター：

大阪大学大学院医学系研究科 分子病態生化学

菊池 章

熊本大学発生医学研究所 生殖発生分野

山田 源

プログラム：

10:00～10:10 はじめに

大阪大学大学院医学系研究科 分子病態生化学

菊池 章

10:10～11:00 「初期胚発生における細胞間接触・細胞極性 Hippo 経路の役割」

熊本大学発生医学研究所 分化制御分野

佐々木 洋

11:00～11:50 「イメージング技術を用いた細胞極性解析」

京都大学大学院医学研究科 基礎病態学講座病態生物学専攻

清川 悦子

11:50～13:10 ー昼食休憩ー

13:10～14:00 「細胞の極性輸送の異常による組織構築の異常と病態について」

大阪大学大学院医学系研究科 細胞生物学教室
原田 彰宏
14:00~14:50 「細胞の極性、脱極性を介する上皮形
態形成」
大阪大学大学院医学系研究科 分子病態生化学
菊池 章
14:50~15:10 一休 憩一
15:10~16:00 「正常上皮細胞と変異細胞の相互作用」
北海道大学遺伝子病制御研究所 分子腫瘍分野
藤田 恭之
16:00~16:50 「神経組織の極性制御とその異常によ
る病態」
名古屋大学大学院医学系研究科 神経情報薬理学講座
貝淵 弘三

16:50~17:00 おわりに
熊本大学発生医学研究所 生殖発生分野
山田 源

定 員：200名
参 加 費：無料
申込方法：①氏名、勤務先、所属、役職名、〒、所在地、
電話を明記の上、E-mailで下記宛お申し込
みください。(FAXでの申込も可)
②事務局より「参加証」を送付いたします。
申 込 先：公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
セミナー A4 事務局
E-mail：dsp@senri-life.or.jp
TEL：06-6873-2001
FAX：06-6873-2002
申込締切：定員になり次第締切

日本分子生物学会 賛助会員一覧

(2010年11月1日現在)

アサヒビール株式会社 食の基盤技術研究所
アトー株式会社 営業開発グループ
株式会社アドバンテージ・サイエンス
アプライドバイオシステムズジャパン株式会社
株式会社エー・イー企画
沖縄科学技術研究基盤整備機構 事業推進部
科学技術振興機構 研究基盤情報部バイオインフォマティクス課
科研製薬株式会社 創薬研究部
協和発酵キリン株式会社 研究本部研究推進部
株式会社コクサン
コスモ・バイオ株式会社 開発部
産業技術総合研究所 北海道センター図書室
ジャスコインタナショナル株式会社 第二事業部営業一課
住友化学株式会社 農業化学品研究所
第一三共株式会社 抗体医薬研究所
タカラバイオ株式会社 バイオインダストリー部
武田バイオ開発センター株式会社 プロジェクトマネジメント部
株式会社ダスキン開発研究所
田辺三菱製薬株式会社 研究本部研究企画部
東洋紡績株式会社 ライフサイエンス事業部
株式会社トミー精工
ナカライテスク株式会社 技術営業部広報課
日本甜菜製糖株式会社 総合研究所第二グループ
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社 BD バイオサイエンス
日本たばこ産業株式会社 植物イノベーションセンター
日本たばこ産業株式会社 たばこ中央研究所
浜松ホトニクス株式会社 システム営業部
ヒゲタ醤油株式会社 研究開発部
日立公共システムエンジニアリング株式会社
富士レビオ株式会社 研究開発部門研究支援グループ
フナコシ株式会社
ボナック株式会社
三菱化学株式会社 RD 戦略室
ヤマサ醤油株式会社 R&D 管理室
ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 AS 事業部
湧永製薬株式会社 湧永満之記念図書館
和研薬株式会社 大阪センター営業推進部

〈50音順〉

特定非営利活動法人
日本分子生物学会 事務局

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-11-5

20 山京ビル 11 階

TEL: 03-3556-9600 FAX: 03-3556-9611

E-mail: info@mbsj.jp

Genes to Cells

Published on behalf of the Molecular Biology Society of Japan

Edited by: Mitsuhiro Yanagida

Frequency: Monthly | Impact Factor: 2.952

日本分子生物学会の学会誌Genes to Cellsは、分子生物学の優れた研究成果を掲載し、著者にとって有益な学術情報や、先見性の高い最新の研究情報を提供しています。全世界で4,000以上の機関で読まれており、年間12,000件以上のダウンロード数を誇ります。是非Genes to Cellsにご投稿ください。

Genes to Cells 投稿の利点

- わかりやすく便利なオンライン投稿システム
- 出版までの過程をお知らせするAuthor Servicesをご利用いただけます
- 早期出版EarlyViewサービスにより、最新号への掲載を待たずにオンラインで出版されます
- 出版後6カ月経過した全論文が無償公開となり、世界中からアクセス可能になります
- 出版されると直ちに無償公開となるオープンアクセスオプション『OnlineOpen』(有料)をご利用いただけます

オンライン投稿はこちら
<http://mc.manuscriptcentral.com/gtc>

2009年出版 引用数TOP 論文 *2010年9月末現在

Role of ornithine decarboxylase antizyme inhibitor in vivo (Volume 14, Issue 1)

Tang H, Arika K, Ohkido M, et al.

COUP-TFII regulates the functions of Prox1 in lymphatic endothelial cells through direct interaction

(Volume 14 Issue 13)

Yamazaki T, Yoshimatsu Y, Morishita Y, et al.

Ctf4 coordinates the progression of helicase and DNA polymerase alpha

(Volume 14 Issue 7)

Tanaka H, Katou Y, Yagura M, et al.

ジャーナル閲覧ページ

www.wileyonlinelibrary.com/journal/gtc

日本分子生物学会の会員はオンラインジャーナルに無料でアクセスしていただけます。

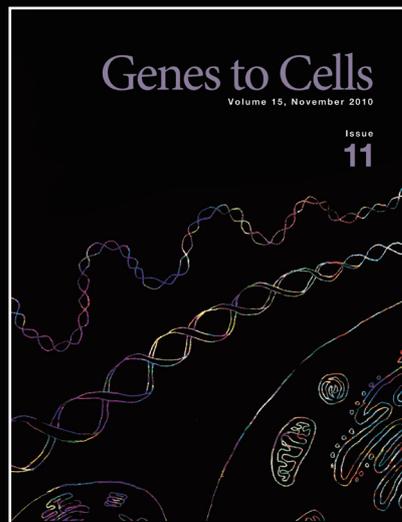
ユーザー登録は学会事務局までお申し込みください。

日本分子生物学会事務局: info@mbsj.jp

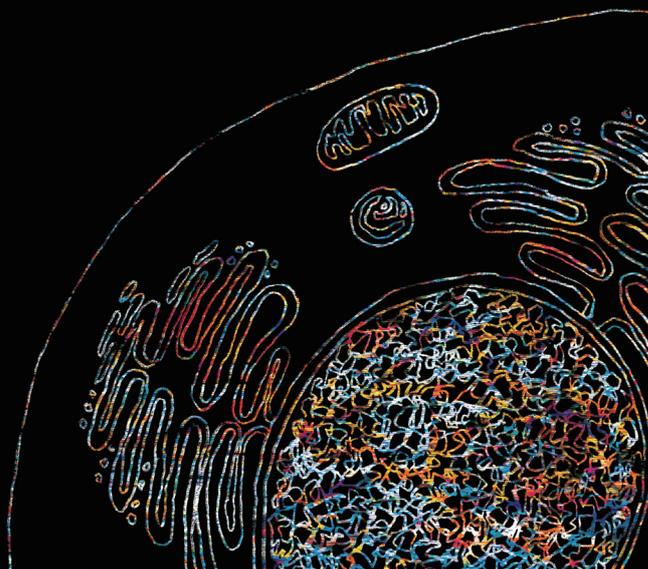
登録後のアクセスに関するご質問は、

Wiley-Blackwellカスタマーサービスにて承ります。

Wiley-Blackwellカスタマーサービス: cs-japan@wiley.com



 **WILEY-BLACKWELL**



The Molecular Biology Society of Japan NEWS

日本分子生物学会 会報

(年3回刊行)

第97号 (2010年11月)

発行——特定非営利活動法人 日本分子生物学会

代表者——岡田 清孝